論コミ通信12月号

SFCフォーラムと高校をつなぐ情報紙

発行：
SFCフォーラム
論理コミュニケーション
教育部門
2018年12月6日（木）
vol.2

論理コミュニケーション（以下、論コミ）実施校の先生方、改めましてこんにちは。高校窓口担当の上野です。創刊号にあたる先月11月号は実施校の先生方から様々なご感想をいただきました。なかには「母校が実施していたことを論コミ通信を通して知り驚いた」とのご報告も。実は今年度、ある実施校の卒業生が教員として働く高校で導入が決まるなど実践の成果が新たな形で現れています。さて今月は、実施校の１つである大阪薫英女学院高校からの嬉しいご報告と、前回に引継ぎQ&A、その特別編をお届けします。

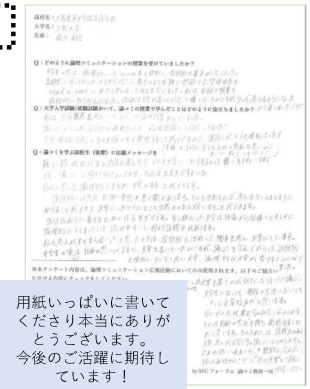
大学合格報告　大阪薫英女学院高校　福井彩乃さん

今回ご紹介するのは、大阪薫英女学院高校３年生で、中学３年生と高校２年生の２年間、論理コミュニケーションを受講した福井彩乃さんの合格体験記の抜粋です。（※大阪薫英女学院高校では、齋田有里研究員による対面授業が実施されています。）

■大学学部名：上智大学　法学部国際関係法学科
■入試形態：指定校推薦（評定、レポート課題、書類審査、面接）

●大学入学試験において、論コミの授業で学んだことはどのように役だちましたか？

私は公募推薦を考えていたので、小論文対策をしていました。論コミで学んだ設計図を使用すれば、どんな問題にも対応できました！　意見・根拠・事例の３つを頭の中で整理することができるので、課題レポートで使用しました！（英検のライティングでも自分の意見を書くので大いに役立ちましたよ！！）



用紙いっぱいに書いてくださり本当にありがとうございます。
今後のご活躍に期待しています！

●論コミを学ぶ高校生（後輩）に応援メッセージを

難しい問いが出てくると内容を考えたりそれを文章にしたりするのは嫌ですよね…（泣）でも、論コミの設計図さえマスターすれば大丈夫ですよ～♡　自分の考えを論理的にまとめ文章にすることができます。（中略）私も考えがまとまらないっ！と思ったときは、設計図を活用して、物事を考え、文章にしています。中学生の頃までは、自分の思いつくままに、文章を書いていたのですが、論コミを学んでからは、設計図を使用し、少しずつ良い文章、論理的な文章が書けるようになりました。いつしか文章を書くのが好きになりました！　論コミは大学生になっても、普段の生活においてもきっと必要な力だと思います。

論コミQ&A　～　第五回目授業　経験・観察　～

SFCフォーラムに寄せられた質問を集約してお伝えします。今回は第五回目の授業の際に寄せられた質問にお答えします。

Q 【根拠・事例】「観察」の書き方がよくわかりませんでした

A 観察は、あなたの周囲で起こったことを詳しく書くものです。例えばあなたのクラスで遅刻者が多いという問題があり、それを事例として書くならば…「ｘｘ高校の2年2組では、2018年10月25日の朝遅刻者が5名出た。なお、昨日10月24日は遅刻者が4名だった。先週1週間では遅刻者がいなかった日はない。」と起こった事実を丁寧に書きます。これが観察の書き方です。（仁藤）

Q 【根拠・事例】観察のところで周りにそのような人がおらず、自分自身の体験の場合はどうするか

A 自分自身の体験は、経験に入りますね。実は経験とは「自分自身を観察した結果」ともいえるため、大きくとらえると観察の一種なのです。観察が書けない場合は、経験を書いてもらって構いません。どちらかが書ければ良いのです。（仁藤）

Q 【根拠・事例】事例で観察を書くときになかなか書くことが思いつかなかった時はどうすれば良いか

A 生徒の皆さん自身が経験できることや観察できることは限られています。そのため、根拠によっては観察や経験の事例が思いつかないときがあります。その時は、根拠を変えてみましょう。経験や観察の事例が書ける根拠は何かと考えてみるのです。そのような順番で考えてみると、今度は「経験や観察が書ける根拠がない」と気づくことがあります。それに気づいたら、最終的には意見を変えるのです。「経験や観察が書ける根拠が出せる意見は何だろう」と考えましょう。（仁藤）

論コミQ&A　～　特別編「“知識”がないと論述できない？」　～

今年から広報活動に力をいれた論コミですが、論理コミュニケーションを紹介するなかで「うちの生徒は書く力以前に知識が乏しいので・・・。」というお声をいただくことがよくありました。しかしながら、そういったお声を頂くたびに我々はなぜ知識がそのように重視されるのか理解に苦しむことがありました。論コミの授業では、自分が観察した結果なども知識の一部であると伝えています。つまり、自分の外側にある知識を取り入れることが論理的な記述の前提にあるのではなく、自分の観察（や、その一部である経験）を事例に用いて書くことはできるということです。またその書き方を授業において繰り返し指導しています。
今回は、基礎研究当初から論コミの開発に携わり、また国内外の大学で教鞭をとられる梅嶋先生より、なぜ大学が求める論述において自らの経験や観察を事例に書くことが重要なのかを説明して頂きました。

精緻な観察は、中途半端な知識に勝る

ある高校の先生が、学習教材会社の関係者が全国の高校の先生へ配布したというメールマガジンを私に転送してくれた。そこには、「良い志望理由書の決め手は学校の外に出て大人の話を聞く」という驚きの意見があった。様々な大学の先生や教育行政の専門家とその内容を読み合いした時、皆が同じ認識を持った。

「酷い。なんでもありだー。」

世界中の大学という組織では、論理的なコミュニケーションというルールを守れば、今までの知識体系とされる定説や社会の常識と違う意見を発表出来る。『論理コミュニケーション』は、そうした大学での論述を必要最小限な9つのルールを覚えるだけで再現出来るようにした手法である。

さて、ここで前述の「良い志望理由書の決め手は学校の外に出て大人の話を聞く」という意見記述を『論理コミュニケーション』してみたい。まず、意見を「良い志望理由書の決め手は学校の外に出て大人の話を聞く」と位置づけ、根拠を「大学で学びの計画を立てる際に多用されている」としよう。そして、『論理コミュニケーション』のルール4は、自ら出した根拠に対して事例(エビデンス)を出すことを求める。そこで、その根拠を説明する事例(エビデンス)を探すことを目的として、大学での学びを観察(例えば、大学の先生へインタビュー)する。

その観察では、大学で学びの計画を立てる際に多用されている手法は、図書館やデータベースにアクセスしてひたすら専門書や論文を読みまくり、そこから自らの学習を始める際の意見(研究仮説と帰無仮説)を導き出すと言う文献調査という観察結果がすぐに得られるはずだ。その結果、大学での論述に従えば、根拠が事例によって説明されず、「良い志望理由書の決め手は学校の外に出て大人の話を聞く」という意見は、根拠によって選ばれない意見という位置づけになる。

15年に及ぶ論理コミュニケーションの研究開発は、私に多くの高校生や高校の先生と議論する時間を与えた。しかし、そこで、残念に思うことは、根拠を説明する事例において自らの観察が疎かにされていることである。逆に、中途半端な知識が過剰に重用される。例えば、先ほどの「良い志望理由書の決め手は学校の外に出て大人の話を聞く」という意見では、学習教材会社の関係者は、フィールドワークへ中途半端な知識を重用していた。

しかし、高校生が観察結果を事例としてまとめることは学習可能なようだ。『論理コミュニケーション』のルール4は、小学生時における学びを出自とし、高校段階でも充分に学び直しが可能であるのだ(仁藤、2018)。精緻な観察は、中途半端な知識に勝るー。大学の学びは、博学を問うクイズ番組の世界とは全く違う。

参考文献
○仁藤亜里『一般財団法人SFCフォーラム主催論理コミュニケーション論述力検定2018年度評価基準説明』, 一般財団法人SFCフォーラム, 2018

梅嶋真樹
慶應義塾大学大学院特任准教授
マレーシア工科大学客員教授

コラム　～「論理コミュニケーション」導入から７年～

こんにちは。平成24（2012）年度に東筑高校において論理コミュニケーションを立ち上げ、現在はSFCフォーラムで全国の高校の教員研修実施や、教材開発の監修を担当している井上孝志です。
福岡県立東筑高等学校での導入の契機は、「志望理由書」を生徒自らが書く力を身に着けさせたいというものでした。東筑高校は、一般推薦・AO入試もさることながら、推薦入試では指定校推薦も多く、特定のクラスに集中し、クラスの３分の１前後が指定校推薦組でした。ですから、担任の負担はとても大きいものとなります。担任の負担を軽減する、そのための方策を考え続けていました。そんな時、出会ったのが『論理コミュニケーション』（梅嶋真樹他,慶應義塾大学出版2011）でした。導入初年度は、2年生2学期～3年生1学期まで実施し、指定校推薦組の多くが、自らしっかりした志望理由書を書いてきました。授業開始は2012年です。その論コミ第一期生が、福岡県高校教員採用試験の際に「論理コミュニケーション」を使ってくれ、今年度から福岡県の教壇に立っています。

SFCフォーラム研究員・教員研修責任者（元福岡県立東筑高等学校教諭）　井上孝志